

旧新豊町小学校跡地 整備基本構想



令和8年1月
金沢市

はじめに

旧新豊町小学校は、明治3年11月に河原町小学校として創立され、平成31年3月に菊川町小学校と統合し、新たに犀桜小学校が開校するまで、約150年もの長きにわたって本市の発展を支えるとともに、今なお地元の方々にとって、地域コミュニティの核として愛される場所となっています。

跡地は、本市の中心市街地（まちなか区域）に位置し、本多町歴文化ゾーン、寺町寺院群などの歴史文化遺産や文化施設が集積するほか、片町や香林坊などの商業中心地に近接しながら、周辺には歴史的風情が残るまちなみや自然豊かな犀川を有するなど、商業環境と居住環境が調和するエリアにあります。

地元である新豊町地区の方々とは、これまで跡地の利活用策についての意見交換会を重ね、跡地が、地域の活性化や防災力の向上につながるものとなるよう、大きな期待が寄せられています。

このような立地特性や、地元の方々の思いを踏まえ、地域だけでなく多様な人々が交流することで、まち全体の活性化につながる新たな施設の整備を目指し、「旧新豊町小学校跡地整備基本構想検討懇話会」による議論を重ね、この度、「旧新豊町小学校跡地整備基本構想」を策定しました。

今後、この基本構想に基づき、新たな施設が、「多様な人々と地域がつながり、学びと共に創を創出する地域力創造拠点」として、多様な主体や幅広い世代の連携・交流を促進する拠点となるとともに、これまでと変わらず地元の方々にも愛される場所となるよう、整備を進めてまいります。

目次

第1章 現状と課題等の整理	1
1. 旧新豊町小学校の概要.....	1
2. 周辺環境.....	6
3. 立地特性.....	9
4. 地元からの要望及び意見交換会での意見.....	10
5. 現状と課題の整理及び検討の視点.....	11
6. 大学ヒアリング.....	12
第2章 整備の方向性	13
1. 基本的な考え方（コンセプト及び役割）	13
2. 必要な機能.....	14
3. 全体像.....	16
4. 拠点施設で生まれるつながりのイメージ.....	17
第3章 今後の具体的な検討における課題・留意点	18
1. 施設整備について.....	18
2. 運営について.....	18

<参考資料>

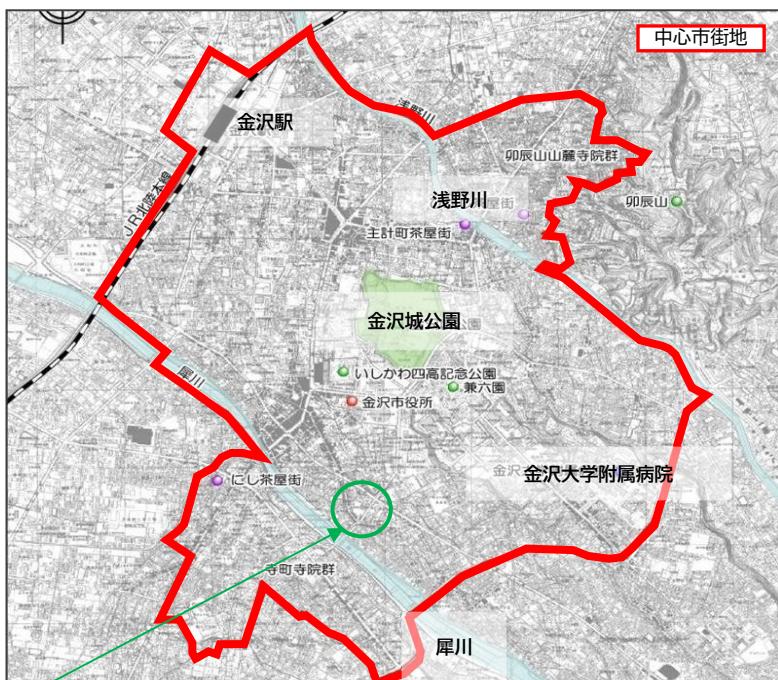
旧新豊町小学校跡地整備基本構想検討懇話会

第1章 現状と課題等の整理

1. 旧新豊町小学校の概要

(1) 位置

旧新豊町小学校は、本市の中心市街地内に位置しており、北側に地区公民館のある新豊会館や、西側に新豊町商店街が隣接しています。



(2) 旧新豊町小学校の沿革

旧新豊町小学校の歴史と著名な出身者は、以下の通りです。

<年表>

年月	主な出来事	約 150 年
明治 3 年 11 月	河原町小学校として創立	
19 年 7 月	現在地に校舎新築	
大正 3 年 9 月	菊川町小学校創立に伴い一部児童分離	
昭和 22 年 4 月	金沢市立新豊町小学校に改称	
39 年 3 月	校舎改築落成	
平成 22 年 11 月	創立 140 周年記念式	
31 年 3 月	菊川町小学校との統合に伴い閉校	

<著名な出身者>

三宅 雪嶺	(哲学者・思想家)	林 銑十郎	(内閣総理大臣)
鈴木 大拙	(仏教哲学者)	阿部 信行	(内閣総理大臣)
藤岡 作太郎	(国文学学者)	永井 柳太郎	(政治家) など

(3) 施設の概要

旧新豊町小学校跡地における施設（土地、建物）の概要は、以下の通りです。

<土地の概要>

	地番	新豊町 3 丁目 25 番 1 ほか 15 筆
	面積	建物敷地 : 4,516 m ² 運動場用地 : 4,663 m ² 合計 : 9,179 m ²
	接道	①本多通り側 ②新豊町商店街側
	状況	③新豊会館側 計 3 箇所
	①本多通り側	②新豊町商店街側
	③新豊会館側	
	  	

<建物の概要>



旧校舎	構造	鉄筋コンクリート造4階建
	延床面積	4,526 m ²
	建築年	1960~63年(昭和35~38年)
	耐震性	未耐震(旧耐震、改修無)

体育館	構造	鉄筋コンクリート造2階建
	延床面積	863 m ²
	建築年	1979年(昭和54年)
	耐震性	補強済(旧耐震、平成21年一部改修)



(右)旧校舎、(左) 体育館



旧校舎



体育館

(4) 敷地の法規制

旧新豊町小学校跡地における敷地の法規制等に関する主な内容は、以下の通りです。

<主な法規制等>

区分	項目	内容
都市計画関係	用途地域・建ぺい率・容積率等	用途地域 近隣商業地域 建ぺい率 80% 容積率 300%
	防火・準防火地域・22条区域	準防火地域
	高度地区	18m高度地区
	駐車場整備地区	金沢市都心部地区
	その他	集約都市関係区域 居住誘導区域、 都市機能誘導区域(都心拠点)
	洪水浸水想定区域	犀川
防災関係	想定最大規模	0.5m以上~3.0m未満
	液状化危険度	低い
	避難所	「拠点避難所」に指定
	防災設備	「備蓄倉庫」「同報防災無線」「防火水槽」設置場所

<その他の法規制等>

区分	項目	内容
都市計画関係	臨港地区（分区含む）	指定なし
	緑地保全区域	
	高度利用地区	
	特別用途地区	
	土地区画整理事業	
	その他都市施設	
	地区計画/協定区域	
景観政策関係	景観計画区域	伝統環境保存区域
	伝統環境保存区域	B. 伝統的街並み区域
	伝統環境調和区域	指定なし
	近代的都市景観創出区域	
	重要広域幹線景観形成区域	
	屋外広告物（禁止地域等）	第3種禁止地域
	特定屋内広告物届出地区	特定屋内広告物届出地区
	広告物活用地区	指定なし
	景観保全型広告整備地区	
	独立広告物調整地区	
夜間景観形成条例	禁止物件のある地域	
	禁止展望地域	
	照明環境形成地域	まちなか地域
	夜間景観形成区域	歴史的景観保全区域
その他	沿道景観形成条例	指定なし
	保全用水	
	重要文化的景観区域	
	眺望景観形成区域	金沢城公園辰巳櫓跡
	風致地区条例	指定なし
	川筋景観保全区域	
	斜面緑地保全区域	
	こまちなみ保存区域	
	寺社風景保全区域	
	伝統的建造物群保存地区	
	景観地区	

<その他の法規制等（続き）>

区分	項目	内容
防災関係	緊急輸送道路	計画地東側に 第2次緊急輸送道路の指定 (1級幹線4号：広坂・新桜坂線)
	その他	ため池決壊による 浸水想定区域
	土砂災害警戒区域	
	砂防三法	急傾斜地崩壊危険区域
		地すべり防止区域
		砂防指定地
	宅地造成等工事規制区域	
その他	津波災害警戒区域	
	家屋倒壊等氾濫想定区域	
	周知の埋蔵文化財包蔵地	指定なし
	市道認定路線	計画地東、西側の前面道路に指定 東側：1級幹線 (1級幹線4号広坂・新桜坂線) 西側：一般道路（2連区線）
	除雪路線	計画地東側前面道路： 第1次路線消融雪装置設置箇所 (市道)
	連合会区域名	新豊町校下町会連合会
	町会区域名	新豊町三丁目会

2. 周辺環境

(1) 居住環境

跡地は近隣商業地域又は商業地域に囲まれていますが、その背後には主に第一種住居地域となる居住エリアが形成されています。居住エリア内には、市のこまちなみ保存区域に指定されている西側の水溜町区域や北側の里見町区域をはじめとして、木造住宅が多く存在しています。また、新豊町地区内には、遊具付きの公園や緑地がありません。



水溜町（こまちなみ保存区域）



幸町（木造住宅密集地）

(2) 商業環境

新豊町地区内には、隣接する新豊町商店街、豊町商店街をはじめ、柿木畠商店街、広坂商店街といった4つの個性豊かな商店街が賑わっています。

また、1km圏域内には、片町地区の繁華街や、片町きらら、香林坊大和などの大型商業施設も立地しています。



新豊町商店街



豊町商店街



片町きらら

(3) 自然環境

跡地の南側には、芝生が敷かれた広い河川敷を有する犀川が広がっており、散歩や桜並木を楽しむ人々の憩いの場となっています。また、近年では官民連携による河川敷の日常的な利活用を促進する取組みも行われています。



犀川（桜並木）



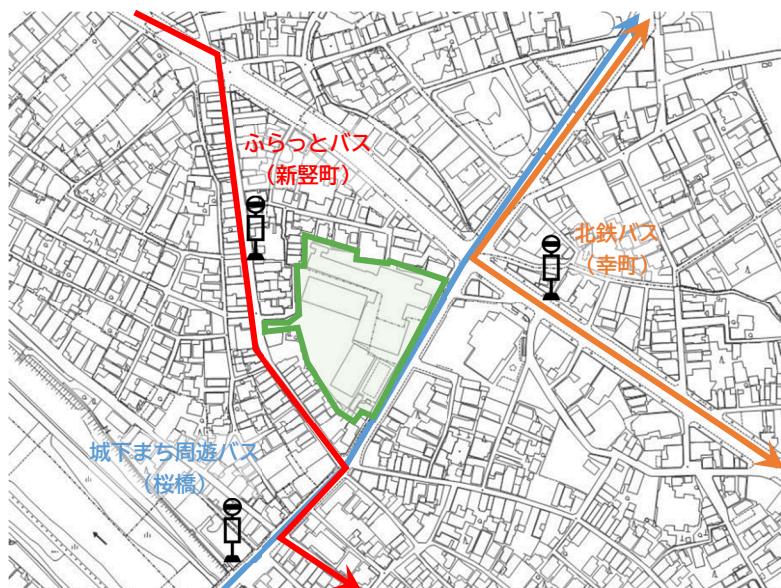
河川敷でのイベント風景

(4) 交通環境

跡地の周辺には、生活路線バスとして、北陸鉄道バスと金沢ふらっとバス（菊川ルート）、観光路線バスとして、城下まち金沢周遊バス（左回りルート）が運行されています。

接道する主な道路の状況として、東側の本多通り（市道広坂・新桜坂線）は、歩道幅員が約1.5mと狭く、歩行者の往来がしづらい状況です。西側の新豊町商店街の道路は、歩車分離されていない、豊町から幸町方面への一方通行路です。

<周辺バス路線及び最寄りバス停>



各バス停までの距離

・ 北陸鉄道バス	幸町	170m
・ 金沢ふらっとバス	新豊町	94m
・ 城下まち周遊バス	桜橋	230m

※すべて地図上の直線距離



本多通り（広坂・新桜坂線）歩道



新豊町商店街

（5）歴史文化遺産・文化施設

跡地の周辺には、北側に、松風閣庭園をはじめとして多くの歴史文化遺産や文化施設が集積する本多町歴史文化ゾーン、南側の犀川を渡れば、約 70 もの寺院が集まる市内最大規模の寺院群である寺町寺院群があります。そのほか、金沢 21 世紀美術館や金沢ふるさと偉人館などの文化施設が多く立地しています。



松風閣庭園



金沢 21 世紀美術館

3. 立地特性

施設概要や周辺環境を踏まえ、旧新豊町小学校跡地は以下の立地特性を有する場所であると整理しました。

【ポイント】

◆市の中心部に位置

- ・中心市街地内に位置
- ・都市機能誘導区域
- ・公共施設が集積

◆歴史文化遺産や文化施設が集積

- ・金沢 21 世紀美術館や本多町歴史文化ゾーン、寺町寺院群などに近接

◆商業環境と居住環境が調和

- ・片町、香林坊など商業の中心地に近接
- ・魅力的な商店街の背後に住宅地
- ・自然豊かな犀川に近接



地域だけでなく多様な人々が交流し、まち全体の活性化に資する場所

4. 地元からの要望及び意見交換会での意見

跡地の利活用に関して、令和4年4月に新豊町地区各種団体連絡協議会より提出された要望や、令和5年度及び令和6年度に開催した地元意見交換会での意見を以下の通り整理しました。

＜主な要望事項や意見＞

分類	主な要望事項・意見
学術	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等の教育実践施設を誘致してほしい
交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の交流の場（運動会や盆踊りの場）としての広場を確保してほしい ・施設の利用については、地域住民を優先するとともに費用負担についても配慮してほしい ・この場所は若い世代をはじめ、属性が異なる多様な人が交わる場所である ・子どもから高齢者まで多様な人が交流できる空間があるとよい ・地元の人も気軽に使える場所になってほしい ・新豊町には公園がないため、子どもが遊べる場所がほしい ・子どもが歩いて行ける場所に、安全に遊べる場所がほしい ・子どもが遊んでいる間に親が買い物をするなど親子が使いやすい場所になってほしい
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館を高齢者等が避難しやすいように改修又は新たな施設に防災倉庫と会議室を有した地区防災施設を設置してほしい ・浸水想定区域のため、拠点避難所を現体育館から移してほしい ・住宅密集地のため、体育館を解体しても避難所となる空間は確保してほしい
回遊	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する公民館との一体的活用を図ってほしい ・歩行環境を整備し、金沢城から野町までの回遊性を高め、周辺の商店街や観光文化施設との利便性を向上する拠点としてほしい ・公民館との接続や併設も視野に入れてほしい ・前面歩道が狭く、人の往来がしづらい ・周辺道路の交通渋滞が悪化しないよう配慮してほしい ・歩行空間の改善やエレベーターの設置など高齢者も安心して使えるようにしてほしい

5. 現状と課題の整理及び検討の視点

(1) 現状と課題

施設の概要や立地特性、地元の要望等を踏まえ、現状と課題を以下のように整理しました。

<現状と課題の整理>

区分	現況と課題
施設 (敷地・建物)	<ul style="list-style-type: none"> まちなかの広大な土地 校舎は老朽化しており、未耐震 新豊会館や新豊町商店街に隣接 地域の拠点避難所だが、洪水浸水想定区域（0.5～3.0m）
周辺環境 立地特性	<ul style="list-style-type: none"> 地域だけでなく、多様な人々が交流し、まち全体の活性化に資する場所 居住エリアには木造住宅が密集 遊具付きの公園や緑地がない 商店街や犀川で賑わいが創出 東側の本多通りは歩道幅員が狭い
地元 要望等	<ul style="list-style-type: none"> 大学等の教育実践施設の誘致 住民交流の場の確保 防災機能の強化 子どもが遊べる空間の確保 多様な世代の交流促進

(2) 検討の視点

現状と課題を踏まえて、本構想の策定における検討の視点を以下のように設定しました。

<検討の視点>

◆視点1 多様な主体の活動

- 大学等のまちなか活動拠点となる大学サテライト機能
- 市民活動の拠点となる機能 などについて検討します。

◆視点2 幅広い世代の交流

- 誰もが気軽に利用できる開かれた交流空間
- 隣接する新豊会館や豊町・新豊町商店街を含む周辺との回遊性 などについて検討します。

◆視点3 地域の安全安心

- 洪水浸水想定区域であることを踏まえた拠点避難所のあり方
- 周辺道路の歩行環境 などについて検討します。

6. 大学ヒアリング

検討の視点のうち、「大学等のまちなか活動拠点となる大学サテライト機能」に関して、大学側のニーズや新たな施設で想定できる活動等について、令和7年6月下旬から7月上旬にかけて、市内及び近郊5大学の地域連携部門等の担当者ヒアリングを実施しました。

この結果については、本構想の検討における基礎資料として活用しました。

<大学ヒアリング結果>

分類	主な意見
ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の傾向として地域課題解決型のプログラムや学部が増えており、大学が地域とつながりを持つ拠点があるとよい ・課題を抱える地域の方から、どの大学に相談してよいかわからないという声も聞くため、地域と大学をつなぐコーディネーターがいるとよい
想定する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかでのフィールドワーク、地域と連携した社会実験 ・社会人向けリカレント（学び直し）教育を含めた公開講座 ・夏休み等の子ども向け教室 ・運動系、芸術系の学生が主体となった子ども～中高生向けの教室 ・小・中規模（100人程度以下）の学会や研究会
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のまち市民交流館が学生の主体的な活動の拠点であるのに対し、旧新豊町小学校跡地はよりアカデミックな学びの拠点となってほしい

第2章 整備の方向性

令和7年度の「旧新豊町小学校跡地整備基本構想検討懇話会」での議論を踏まえ、新たな施設の整備の方向性として、基本的な考え方や必要な機能などを以下のように定めます。

1. 基本的な考え方（コンセプト及び役割）

新たな施設整備における基本的な考え方となる、コンセプト及び役割は以下の通りです。

«コンセプト»

多様な人々と地域がつながり、学びと共に創出する地域力創造拠点

«役割»

●大学等と地域との連携による学びの振興・発展

大学等が地域社会とつながりをもち、あらゆる人に学びが提供されるとともに、地域課題の解決に向けた連携した取り組みにより地域社会の振興・発展に寄与します。

●学生を中心に、幅広い世代の交流の促進

学生を中心として、子どもや中高生、大人まで幅広い世代がつながりをもつとともに、多様な人々が集い、地域やまち全体に賑わいを波及させます。

●多様な主体の活動と、相互の連携の促進

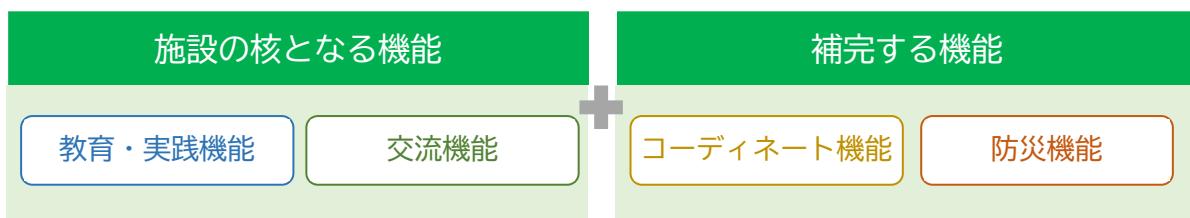
大学等だけでなく、市民団体等多様な主体の活動を支援、促進するとともに、相互のつながりや地域とのつながりを深め、相乗効果を創出します。

●地域の安全安心の確保

大規模災害時にも避難可能な拠点避難所としての機能を確保します。

2. 必要な機能

基本的な考え方を踏まえ、「施設の核となる機能」及び「補完する機能」としてそれぞれ必要な機能は以下の通りです。



<必要な機能>

教育・実践機能

- ・大学等による学びの提供や、地域課題解決に向けた取り組みを行います。

ソフト（活動）例

- ・まちなかフィールドワーク
- ・地域と連携した社会実験
- ・地元商店街や企業と連携したチャレンジショップなどの仕事の体験
- ・地域課題解決に向けた取り組み
- ・市民向け公開講座
- ・学会、研究会



ハード（空間）例

- ・大小の講義室
- ・ミーティングスペース
- ・実験・活動スペース
- ・通信環境



交流機能

- ・学生が中心となり、子どもや中高生が居場所と感じられる場を創出します。
- ・地域だけでなく、多様な人、幅広い世代が交流する場を創出します。

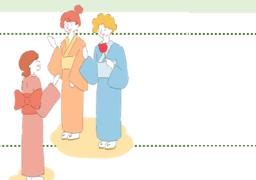
ソフト（活動）例

- ・子どもの自由な遊び
- ・中高生の居場所
- ・学生による子ども向け教室
- ・地域の交流行事



ハード（空間）例

- ・屋内外の交流空間
- ・誰もが居心地よく滞留できる空間



<必要な機能（続き）>

コーディネート機能

- ・多様な団体が取り組む地域課題解決に向けた活動を支援します。
- ・地域、大学等、市民活動団体のニーズとシーズを集約し、マッチングします。

ソフト（活動）例

- ・地域課題解決の支援
- ・地域、大学等、市民活動団体のマッチング



ハード（空間）例

- ・活動支援窓口
- ・マッチング支援窓口



防災機能

- ・浸水想定区域であることを踏まえ、大規模災害時にも避難できる拠点避難所を整備します。

ソフト（活動）例

- ・安全安心な避難行動

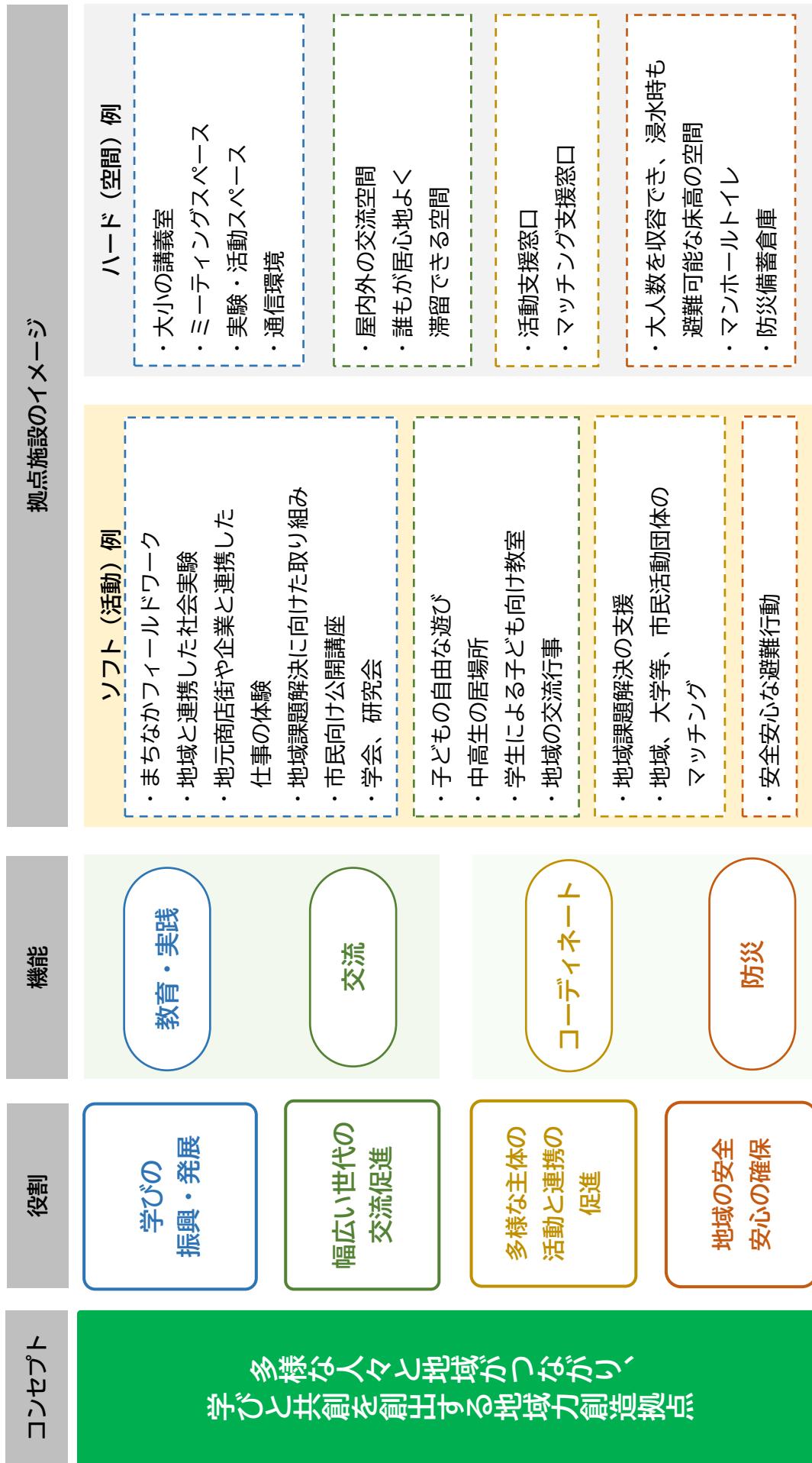


ハード（空間）例

- ・大人数を収容でき、浸水時も避難可能な床高の空間
- ・マンホールトイレ
- ・防災備蓄倉庫

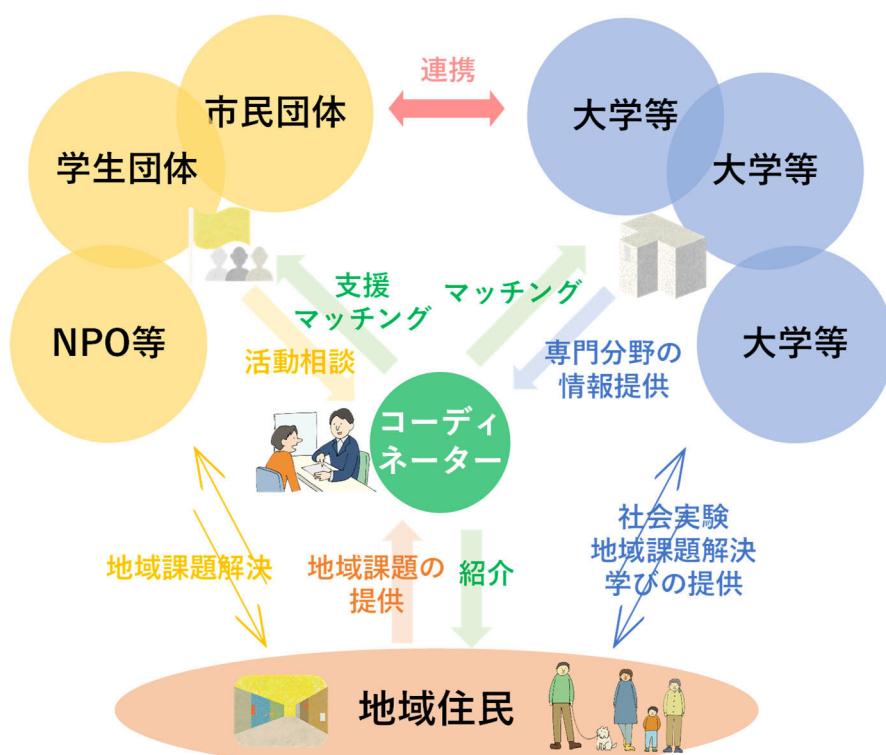


3. 全体像

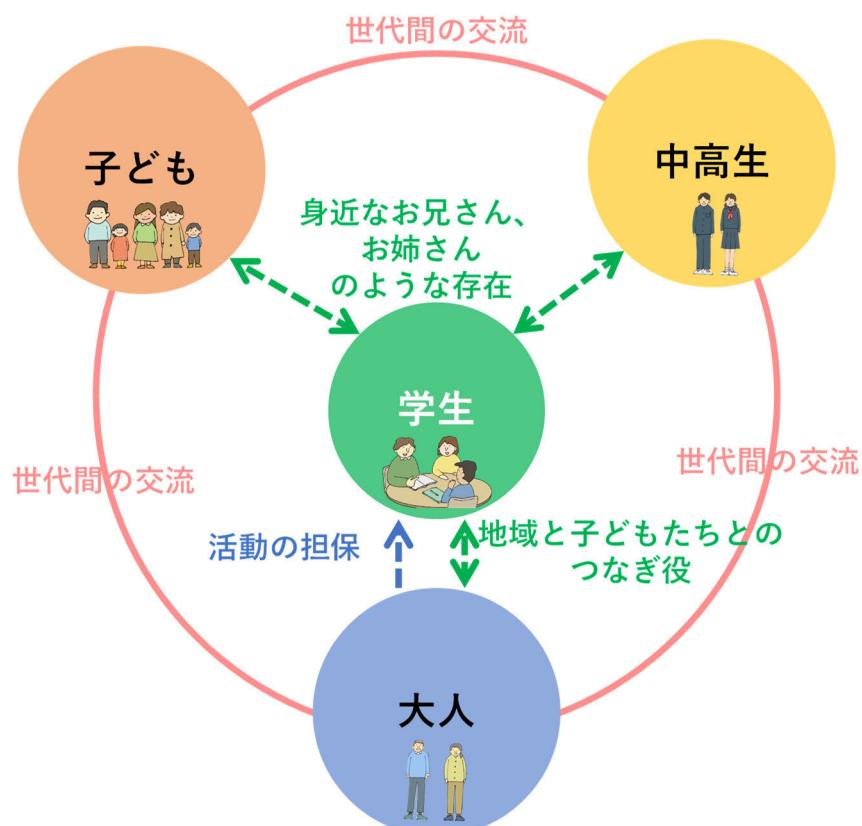


4. 拠点施設で生まれるつながりのイメージ

地域、大学など多様な主体のつながり（教育・実践機能、コーディネート機能）



幅広い世代のつながり（交流機能）



第3章 今後の具体的な検討における課題・留意点

本構想の実現に向けた今後の具体的な検討への与件として、課題や留意点を以下の通り整理します。

1. 施設整備について

(1) 施設整備全般に関する事項

- ◆ 生活スタイルの異なる多様な人々、幅広い世代が利用しやすいよう、時間帯ごとに色々な使い方に対応できる空間設計を検討
- ◆ 周辺との回遊性にも寄与する敷地内の配置計画を作成
- ◆ 魅力的かつ効率的な施設建設や民間活力等の導入可能性を検討
- ◆ 施設規模や事業手法を踏まえた整備スケジュールを作成

(2) 各機能の実現に関する事項

- ◆ 地域行事の会場や拠点避難所となる空間は、従前の機能確保の観点も踏まえて検討
- ◆ 防災機能や各機能に必要な面積を踏まえて体育館の取り扱い及び歩道改善の方針を検討

2. 運営について

(1) 運営全般に関する事項

- ◆ 機能ごとのコンセプトやターゲットを明確にし、地域内外の人がバランスよく多くの人に利用されるよう、施設で行う活動内容を検討
- ◆ 活動の担い手として、市民活動サポートセンターなど既存の機能や団体の活用も検討
- ◆ 効率的で持続可能な運営や民間活力等の導入可能性を検討

(2) 教育・実践機能の実現に関する事項

- ◆ 大学等の活用を促進するため、各大学等のニーズを把握し、連携方策を検討
- ◆ 専門学校や県外も含めて、活動の主体となる大学等の対象範囲を検討
- ◆ 多様な主体との連携方策については、令和7年度策定予定の次期金沢市協働推進計画の方針も踏まえて検討

(3) 交流機能の実現に関する事項

- ◆ 学生が運営にも携わる仕組みの構築や大学等からまちなかへの移動手段の確保など、学生が継続的に訪れる仕掛けを検討

(4) コーディネート機能の実現に関する事項

- ◆ 多様な主体と地域をつなぐ体制や人材確保について、民間人材の活用も視野に検討

参 考 资 料

参考資料

旧新豊町小学校跡地整備基本構想検討懇話会

(1) 検討懇話会の開催経過

日程	会議名等	内容
令和7年 5月 29日	第1回 旧新豊町小学校跡地 整備基本構想検討懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ・検討懇話会について ・旧新豊町小学校跡地の概況 ・これまでの経緯 ・現状と課題及び方向性（案） ・意見交換
令和7年 8月 19日	第2回 旧新豊町小学校跡地 整備基本構想検討懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ・前回会議の主な意見 ・大学へのヒアリング結果 ・整備基本構想骨子（案） ・今後の具体的検討における課題・留意点 ・意見交換
令和7年 11月 27日	第3回 旧新豊町小学校跡地 整備基本構想検討懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの主な意見 ・整備基本構想（案） ・意見交換

(2) 委員名簿（役職別、50音順、敬称略）

役職	氏名	所属（団体・役職）
座長	丸谷 耕太	金沢大学融合研究域融合科学系 准教授
委員	稻垣 早紀	未来へつなぐ金沢行動会議 委員
〃	片桐 由希子	金沢工業大学工学部 准教授
〃	甚田 和幸	新豊町地区町会連合会 会長
〃	橋 泰至	協働をすすめる市民会議 委員
〃	鶴見 あゆみ	新豊町公民館 副館長
〃	仁志出 憲聖	株式会社ガクトラボ 代表取締役
〃	山本 修	公益社団法人大学コンソーシアム石川 事務局長

(3) アドバイザー（敬称略）

市民活動サポートセンター チーフコーディネーター 中田 明秀

旧新豊町小学校跡地整備基本構想

令和8年（2026年）1月
金沢市都市政策局企画調整課